

(案)

御堂筋道路空間再編整備ガイドライン (みちガイドライン)

Midosuji Streetscape Redevelopment Guideline
Ver. 1.0



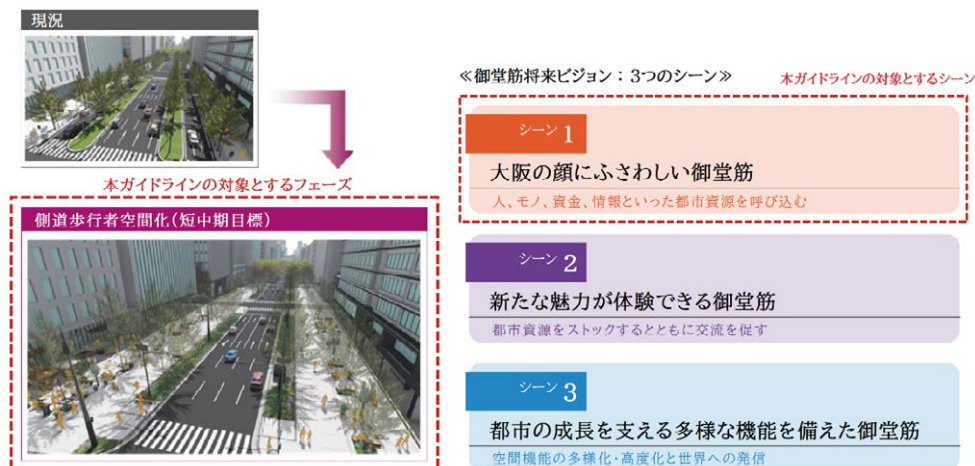
1 はじめに Introduction

1-1. 「御堂筋道路空間再編整備ガイドライン」の目的・構成

1) 「御堂筋道路空間再編整備ガイドライン」策定の目的

「御堂筋将来ビジョン」(2019(平成31)年)では、御堂筋のめざすべき姿として、車中心から人中心のストリートへの転換を打ち出しています。本ガイドラインは、この将来ビジョンを実現するためのファーストステップとしての側道歩行者空間化を行っていく際の空間づくりやデザインの考え方について整理したものであり、整備の一貫性を確保しながら空間の質を向上させ、大阪のシンボルストリートにふさわしい街路景観を創出していくことを目的としています。

▼御堂筋将来ビジョン実現に向けた段階的取組・シーンイメージ



2) 「御堂筋道路空間再編整備ガイドライン」の構成

本ガイドラインでは、公共空間である道路空間のデザインのあり方に焦点をあて、空間づくりやデザインの考え方を示しています。

下記に本ガイドラインの構成を示します。

▼「御堂筋道路空間再編整備ガイドライン」の構成

1. はじめに Introduction	
1-1. 「御堂筋道路空間再編整備ガイドライン」の目的・構成	P1
1-2. 御堂筋の概要	P2
1-3. 対象区間及び対象範囲	P3
1-4. 対象とするデザインエレメント(街路景観要素)	P4
2. めざす空間イメージ Target Image	
2-1. デザインの基本的な考え方(デザインポリシー)	P5
2-2. 空間づくりの考え方	P10
3. デザインの考え方 Design Code	
3-1. デザインエレメントの取扱いに関する考え方	P13
3-2. 各デザインエレメントのデザインの考え方	P14
1) イチョウ	P14
2) 車道照明	P14
3) 歩道照明	P15
4) 門型柱	P15
5) 信号・標識	P16
6) 舗装	P16
7) 縁石・排水施設等(端部・境界表現)	P17
8) 横断防止柵・ボラード等(安全施設)	P17
9) サイン(歩行者向けサイン)	P18
10) 植栽(地被類)	P19
11) ベンチ等(ストリートファニチャー類)	P19
12) 地下出入口上屋等	P20
13) 換気塔	P20
14) 常時設置するその他の占用物	P21
15) 利活用に係る工作物(テーブル・パラソル等)	P21

【留意事項】

- ①「御堂筋道路空間再編整備ガイドライン」に基づき、整備を行う際には関係法令を遵守し、必要に応じて詳細に関係機関と協議の上、許可等を受ける必要があります。
- ②本ガイドラインにおける配置・形態・色彩等はあくまで例として示すものです。
- ③社会状況や整備進捗にあわせて、適宜更新を行う予定としています。

1 はじめに Introduction

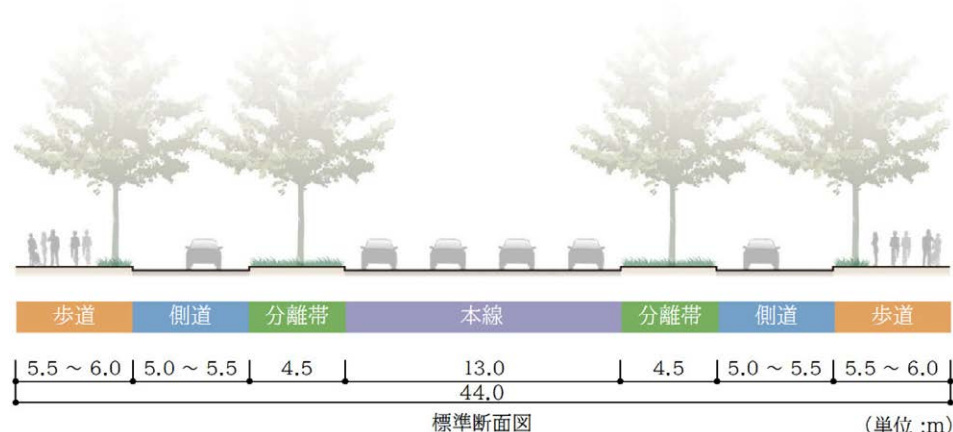
1-2. 御堂筋の概要

1) 御堂筋の基本構造等

御堂筋は、1937（昭和12）年5月に完成した大阪市の中心部を南北に貫く幅員44mのメインストリートです。イチョウ並木や高さの揃った沿道建築物が創り出す美しい景観から、大阪のシンボルストリートとして広く市民に親しまれています。

都市の歴史や文化を活かした景観形成の核となる道路空間を形成するため、2017（平成29）年に景観重要公共施設の指定を受けています。

▼御堂筋の基本構造等



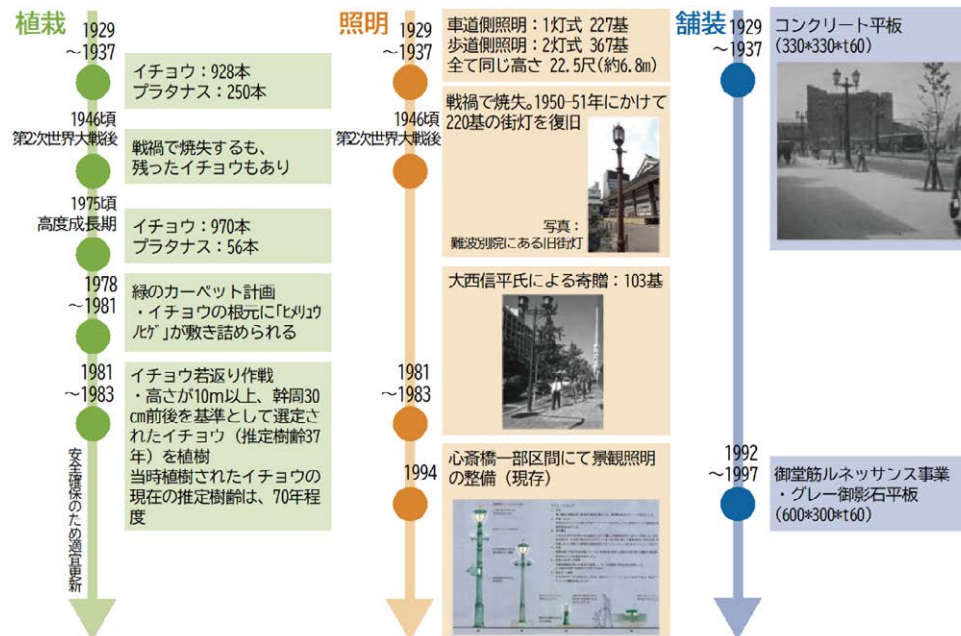
道路愛称名	御堂筋
区間	阪急前～難波駅前（難波西口）
延長	約4.2km
道路の種類	国道
路線名	国道25号、国道176号（都市計画道路名称は 広路4 御堂筋線）
幅員	44m
橋梁数	3橋（大江橋、淀屋橋、道頓堀橋） ※大江橋、淀屋橋は2008（平成20）年に国の重要文化財に指定
街路樹	イチョウ、クスノキ ※イチョウは2000（平成12）年に大阪市指定文化財に指定
道路管理者	大阪市長

2) 御堂筋の街路景観

現在の御堂筋の街路景観は、「御堂筋ルネッサンス事業」（1992（平成4）年～2000（平成12）年）によりほぼ完成しました。当時としては、最先端の街路景観形成の考え方が示されており、この考え方は現代でも通じるものとなっています。

一方で、現在の御堂筋に設置されている地上工作物はデザインの統一感がなく、一部老朽化が進んでいます。御堂筋を大阪の顔にふさわしい高質な街路空間としていくため、デザイン面を考慮した空間づくりの必要性が高まっています。

▼御堂筋の街路景観形成の歴史



▼デザインが統一されていない地上工作物（一部）



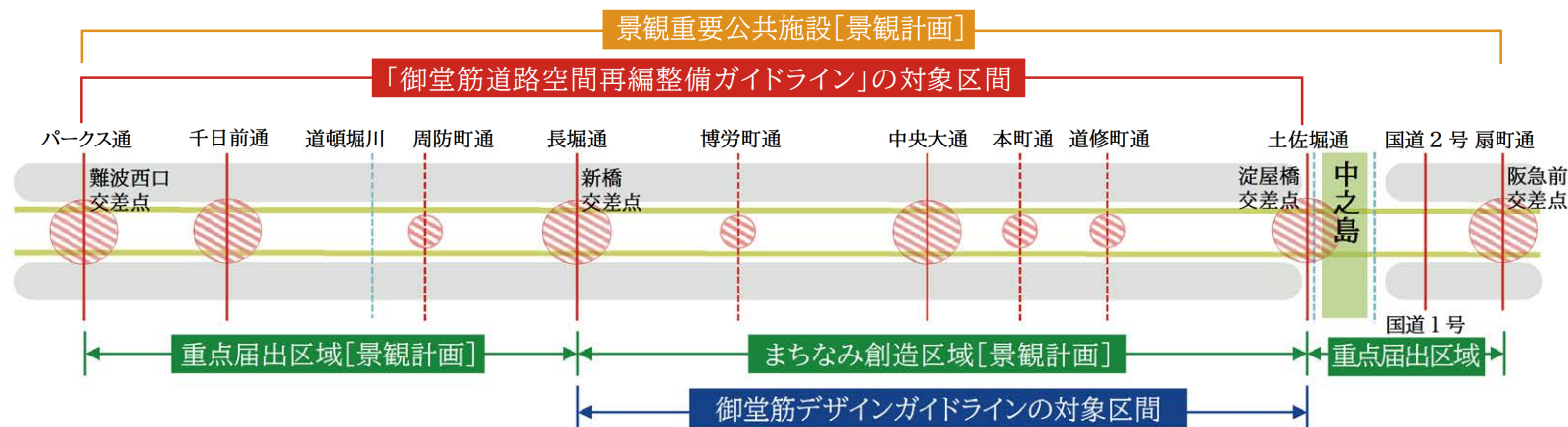
1 はじめに Introduction

1-3. 対象区間及び対象範囲

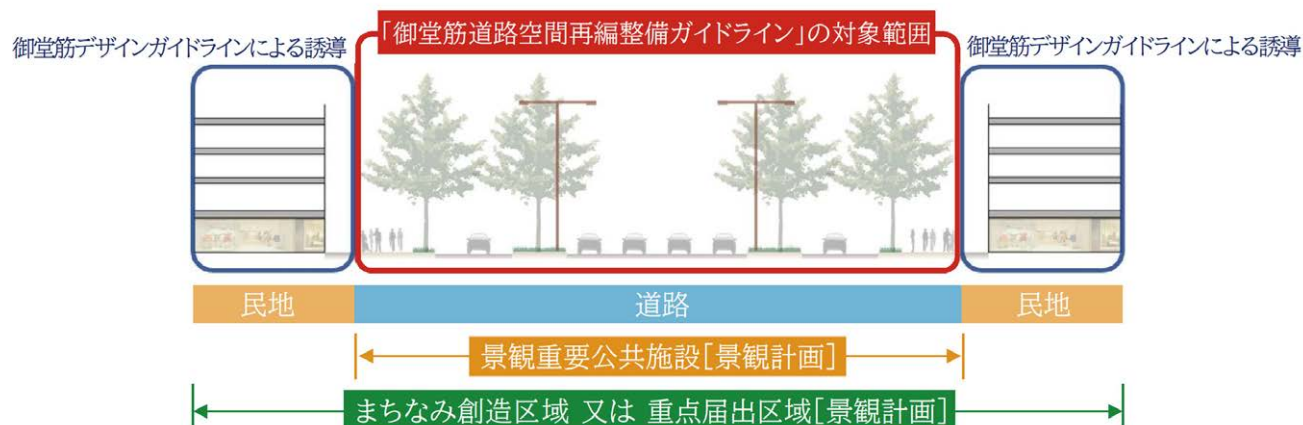
本ガイドラインでは、対象区間を「淀屋橋交差点～難波西口交差点」、対象範囲を「道路区域内」とします。

街路景観は、沿道建築や壁面後退部のデザインと一体的に考えられるもので、そのデザインのあり方は「御堂筋デザインガイドライン」及び「景観計画（重点届出区域/まちなみ創造区域）」で定められています。沿道建築と道路空間が一体となった景観誘導を行っていくため、本ガイドラインでは、御堂筋デザインガイドラインや景観計画で示された方向性と整合する形でデザインの考え方を規定しています。

▼「御堂筋道路空間再編整備ガイドライン」の対象区間



▼「御堂筋道路空間再編整備ガイドライン」の対象範囲



1 はじめに Introduction

1-4. 対象とするデザインエレメント（街路景観要素）

ここでは、本ガイドラインの対象とする御堂筋の地上工作物のデザインエレメントを示します。これらのデザインエレメントごとにデザインの考え方を規定し、空間の質の向上を図っていきます。

▼対象とするデザインエレメント



主に道路附属物・交通信号等として設置するデザインエレメント

- 1) イチョウ
- 2) 車道照明
- 3) 歩道照明
- 4) 門型柱
- 5) 信号・標識
- 6) 舗装
- 7) 縁石・排水施設等 (端部・境界表現)
- 8) 横断防止柵・ポラード等 (安全施設)
- 9) サイン (歩行者向けサイン)
- 10) 植栽 (地被類)
- 11) ベンチ等 (ストリートファニチャー類)

主に道路占用物として設置するデザインエレメント

- 12) 地下出入口上屋等
- 13) 換気塔
- 14) 常時設置するその他の占用物
- 15) 利活用に係る工作物 (テーブル・パラソル等)

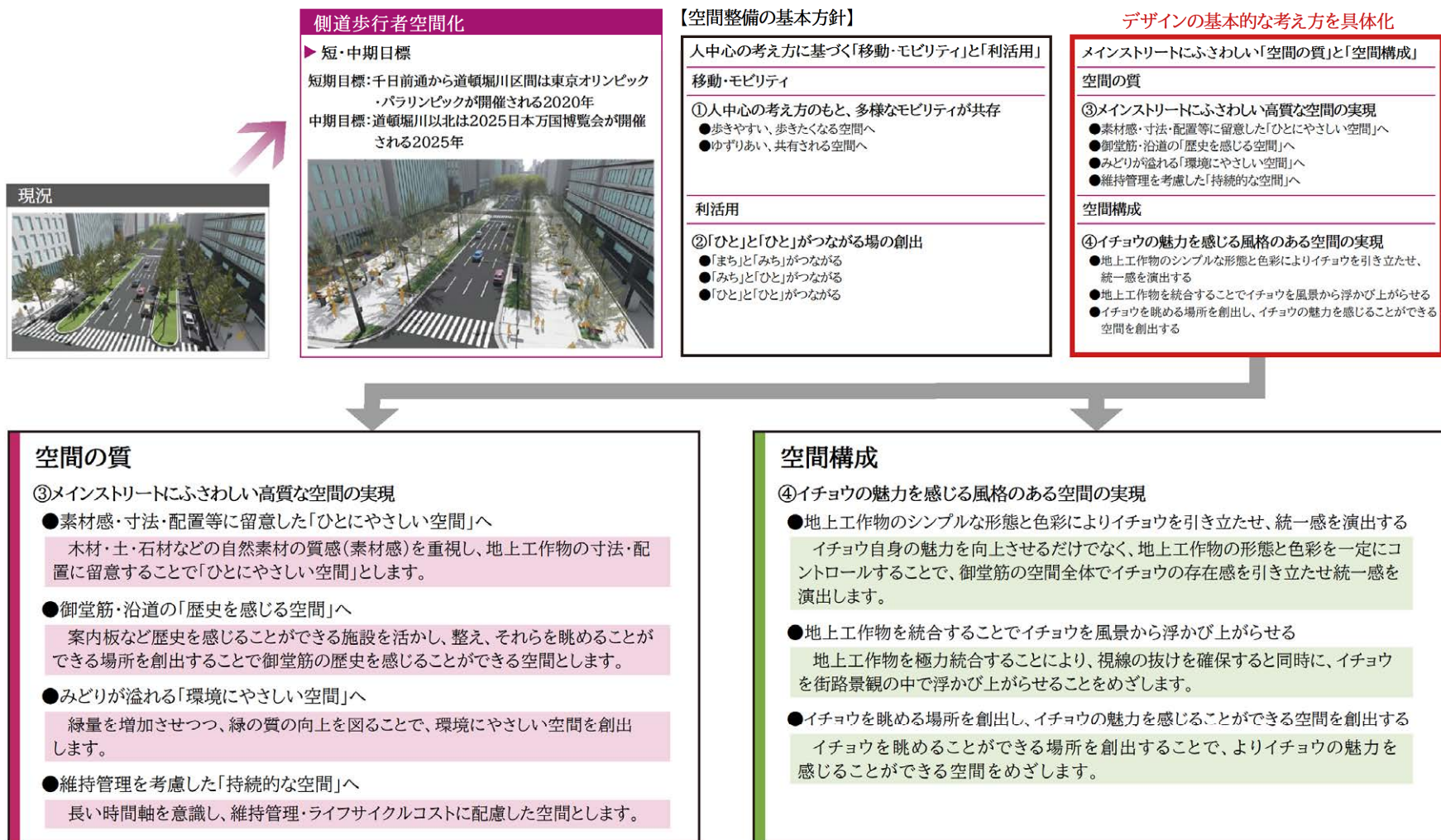
2 めざす空間イメージ Target Image

2-1. デザインの基本的な考え方（デザインポリシー）

御堂筋将来ビジョンでは、人中心のストリートへの転換を見据えた空間整備の基本方針が示されています。その最終的な絵姿を念頭に置きながら、メインストリートにふさわしい「空間の質」と「空間構成」を実現していくため、側道歩行者空間化を対象としたデザインの基本的な考え方（デザインポリシー）を示します。

●御堂筋将来ビジョン

世界最新モデルとなる、人中心のストリートへ



2 めざす空間イメージ Target Image

2-1. デザインの基本的な考え方（デザインポリシー）

空間の質：③メインストリートにふさわしい高質な空間の実現

●素材感・寸法・配置等に留意した「ひとにやさしい空間」へ

木材・土・石材などの自然素材の質感(素材感)を重視し、地上工作物の寸法・配置に留意することで「ひとにやさしい空間」とします。

デザインへの具体化

■自然界にある素材感に近づけることで「ひとにやさしい空間」を演出

- ・デザインの質は、費用と必ずしも正比例の関係にはありません。御堂筋においては、「自然素材の質感（素材感）」を重要視します。
- ・自然界にある樹木や地面は、一見単一色に見えるものも、似た色彩の多様な色で構成されています。また、光沢があるものは多くありません。光沢が少ない見え方の仕上げとすることで「ひとにやさしい空間」の実現をめざします。
- ・また、デザインのねらいに基づき適切な表現を選択し、多くのデザインエレメントの中から重点的に投資すべき要素を明確にしつつ、多くの費用がかけられない要素については、「質感（素材感）」を重要視してデザインを検討することとします。

■寸法・配置で「ひとにやさしい空間」を演出

- ・ストリートファニチャー等は、子供・大人・高齢者の誰もが使いやすい大きさとしていきます。
- ・沿道状況等も踏まえ、空間としてのまとまり/座る場所の適切なスケール感/緑の配置/適切な囲まれ感等を考慮した配置とすることで、「居心地の良い」空間としていきます。
- ・サイン等の案内は、御堂筋から目的地まで迷わず到達できるように適切に配置するとともに、イベント等の地域情報を発信して、回遊を促していきます。
- ・歩行空間については、「通行しやすい空間」とするため、極力段差を設けないこととします。また、通行に支障となる地上工作物は整備しないことを基本とします。

▼沿道状況を踏まえたベンチの配置イメージ



●御堂筋・沿道の「歴史を感じる空間」へ

案内板など歴史を感じることができる施設を活かし、整え、それらを眺めることができる場所を創出することで御堂筋の歴史を感じることができる空間とします。

デザインへの具体化

■歴史を感じることができるスポットの案内板等は必要に応じて再配置等を検討

- ・既存の歴史を感じる案内板や記念碑等については、十分に設置経緯を考慮した上で再配置等を行っていき、御堂筋の歴史を感じることができる場所の創出をめざします。ただし、空間構成の方針で示しているように極力地上工作物は増やさないこととします。
- ・沿道の歴史的建造物、沿道建築のスカイライン、船場文化などの沿道で育まれてきた文化などについても御堂筋の歴史の一部であり、これらを活かした整備を行っていきます。

■イチョウ等を眺めることができる場所を創出

- ・イチョウの4列植栽も御堂筋の歴史や風格を演出する重要な要素です。これらを眺めることができる街路空間を創出していきます。
- ・また、賑わい等を感じることができる街路空間の創出をしていきます。

▼御堂筋にある歴史を知ることができるスポット



往年の御堂筋の姿を表現した立体模型（御堂筋・大丸心斎橋店前）



沿道企業からの寄付により設置した彫刻（御堂筋・淀屋橋～心斎橋）

2 めざす空間イメージ Target Image

2-1. デザインの基本的な考え方（デザインポリシー）

空間の質：③メインストリートにふさわしい高質な空間の実現

●みどりが溢れる「環境にやさしい空間」へ

緑量を増加させつつ、緑の質の向上を図ることで、環境にやさしい空間を創出します。

●維持管理を考慮した「持続的な空間」へ

長い時間軸を意識し、維持管理・ライフサイクルコストに配慮した空間とします。

デザインへの具体化

■将来の緑のネットワーク構築に向けた緑量の増加

- ・御堂筋周辺は、新・大阪市緑の基本計画（2013（平成25）年）において市の緑化重点地区に指定されており、イチョウの保全だけでなく、積極的な緑地整備が求められています。
- ・そのため都市の快適性向上に資する緑被率の増加をめざし、マクロな観点からイチョウの生育環境整備を行います。ミクロな観点では、各エリアテーマに沿う植樹帯の地被植物や植栽柵などの整備を行います。

■質の高い緑空間の確保

- ・ヒートアイランド抑制、緑の見え方、水循環を考慮した植樹帯や舗装浸透施設の整備を行うなど、景観の魅力向上と都市のレジリエンス向上の両立をめざし、質の高い緑空間を確保していきます。

デザインへの具体化

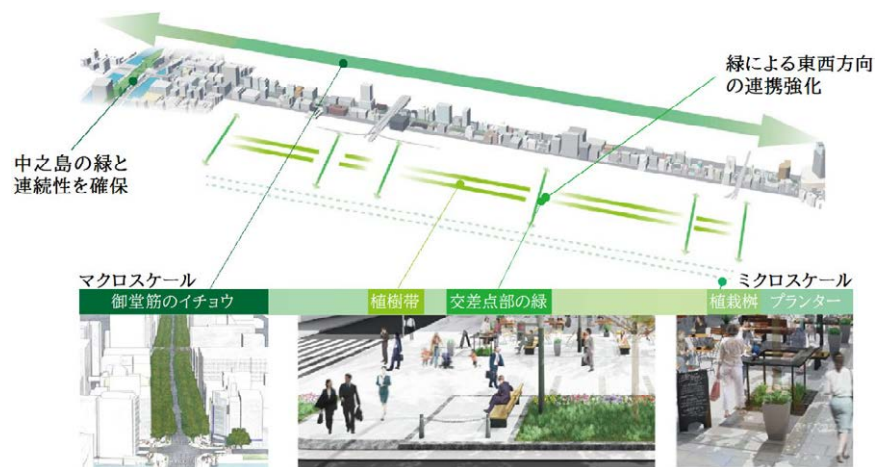
■維持管理に配慮した形態・配置等の採用

- ・維持管理が行いやすい形態・配置を基本とします。
- ・デザイン検討時に清掃・維持管理方法を検討することで清掃や汚れにくさに配慮した形態・仕上げにします。
- ・花・地被類等は、水やりのしやすさ等を考慮した配置とします。

■イニシャルコストだけではなくランニングコストも含めたライフサイクルコストを考慮した素材等の選定

- ・おおよその補修頻度等を想定し、20～50年のスパンでのトータルコストの検討を行ったうえで、素材等の選定を行っていきます。

▼緑のネットワークイメージ



▼維持管理に配慮した形態・仕上げ

曲線等の意匠を行うと、その部分に汚れがたまりやすくなり、かつ塗装剥がれ等の原因になる場合もある。

シンプルなシルエットは耐久性向上にも寄与する。

また、デコラティブな意匠は部品が増え補修費用も嵩む。



2 めざす空間イメージ Target Image

2-1. デザインの基本的な考え方（デザインポリシー）

空間構成：④イチョウの魅力を感じる風格のある空間の実現

●地上工作物のシンプルな形態と色彩によりイチョウを引き立たせ、統一感を演出する

イチョウ自身の魅力を向上させるだけでなく、地上工作物の形態と色彩を一定にコントロールすることで、御堂筋の空間全体でイチョウの存在感を引き立たせ統一感を演出します。

デザインへの具体化

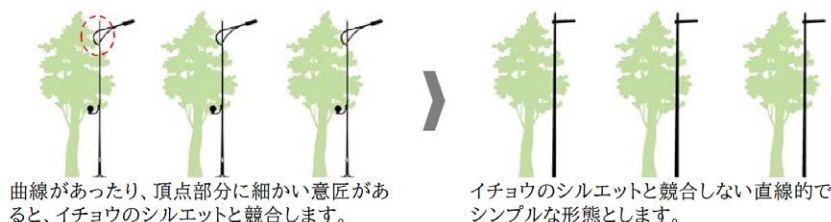
■イチョウを「図」として浮かび上がらせる；形態・色彩で引き立たせる

- ・樹冠の形態を引き立たせるため、背の高い地上工作物等については、直線で構成されたシンプルなシルエットとし、イチョウを「図」として浮かび上がらせます。
- ・イチョウの変化する色彩（緑、黄緑、黄色）を浮かび上がらせるために、各要素の基調色は基本的には無彩色に近い彩度の低い色彩とします。

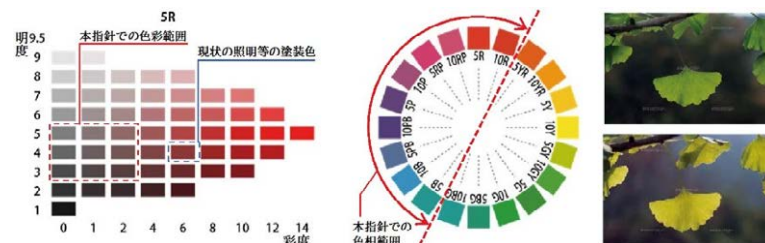
■形態・色彩で統一感を演出することで「地」を整える

- ・形態・色彩に統一感を持たせることで、街路景観の「地」を整え、「図」であるイチョウを引き立たせます。
- ・洗練されているが重厚感を感じる形態と色彩とし、風格を感じる統一感を演出していきます。（「薄い・軽い」形態や「ポップな印象の彩度の高い」色彩は極力用いないなど）

▼イチョウを引き立たせる地上工作物の形態



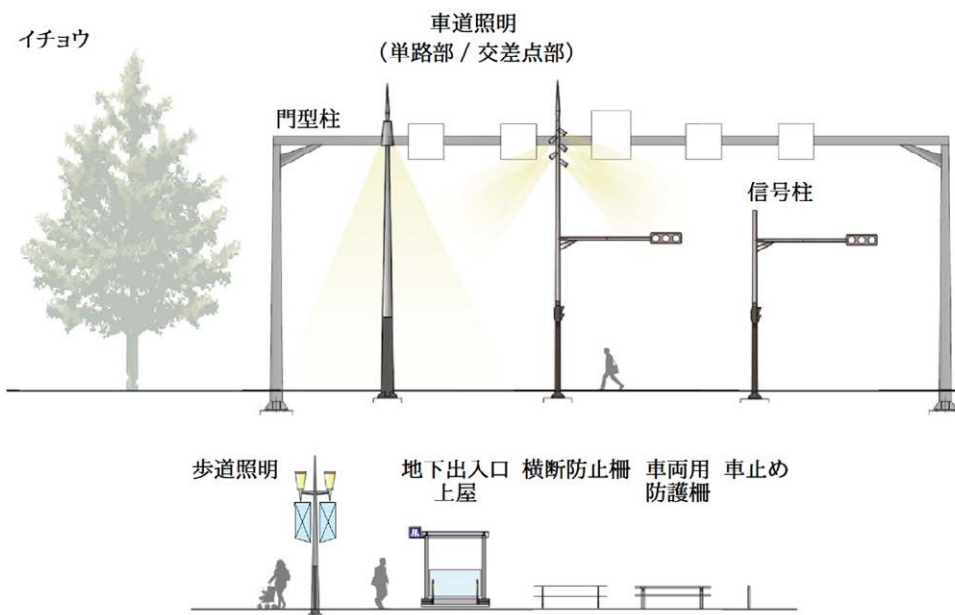
▼イチョウを引き立たせる色彩



■地上工作物は、統一感を覚えるシンプルなデザインとする

- ・御堂筋上には多くの種類の地上工作物があり、これらの地上工作物に共通する形態やテクスチャーを取り入れるなど、地上工作物同士を一体的にデザインすることとします。
- ・スケールの大きい地上工作物や反復性・連続性のある地上工作物は景観への影響が大きいことから統一感を覚えられるシンプルなデザインとします。

▼地上工作物のモデルプラン（一部）



2 めざす空間イメージ Target Image

2-1. デザインの基本的な考え方（デザインポリシー）

空間構成：④イチョウの魅力を感じる風格のある空間の実現

●地上工作物を統合することでイチョウを風景から浮かび上がらせる

地上工作物を極力統合することにより、視線の抜けを確保すると同時に、イチョウを街路景観の中で浮かび上がらせることをめざします。

●イチョウを眺める場所を創出し、イチョウの魅力を感じることができる空間を創出する
イチョウを眺めることができる場所を創出することで、よりイチョウの魅力を感じることができる空間をめざします。

デザインへの具体化

■イチョウ以外の地上工作物について極力要素を減らし、統合していくことで、イチョウを風景から浮かび上がらせる
・信号柱や道路照明などのポール類や分電盤等を極力統合し、地上工作物の要素を減らしていくことでイチョウを風景から浮かび上がらせていくことをめざします。

デザインへの具体化

■近景と中景を楽しめる視点場の創出（眺める場所をつくる）
・近景域と中景域の異なる視距離で御堂筋のイチョウが引き立つような視点場（眺める場所）を創出していきます。
・道路附属物やイベント時の設置物の大きさをコントロールし、イチョウへの視線の抜けを確保します。

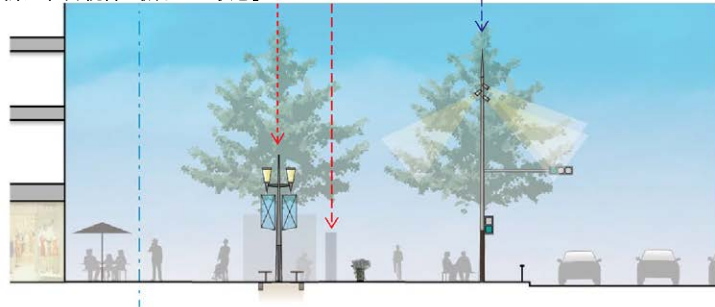
▼地上工作物の統合イメージ

【要素が多く、統合されていない状態】



- ・車道照明、信号、門型柱、標識などがそれぞれのポールで独立している状態。
- ・分電盤・消防用散水栓等立ち上がるものの配置の考え方が統一されておらずバラバラな状態。

【要素を極力統合し減らした状態】



- ・車道照明、信号、門型柱、標識などについては、極力統合し、要素を減らしていく。
- ・分電盤・消防用散水栓等の工作物については、管理者が同じものは極力統合し、管理者が異なるなど統合が難しい場合は集約して設置することで、要素を減らしていく。

▼多様なイチョウの眺め方ができる場所の創出

イチョウを一行の群として眺める



4列植栽のビスタとして眺める



1本のイチョウをじっくり見てみる



2 めざす空間イメージ Target Image

2-2. 空間づくりの考え方

1) エリア特性を踏まえた空間づくり

本ガイドラインでは、道路空間だけでなく、沿道の土地利用・沿道建築の用途を踏まえたものとして、空間づくりの考え方を示しています。御堂筋全体として統一感を演出しながらも、各エリアがその特徴を一層際立たせるため、沿道の土地利用等の特徴を反映したエリアテーマを設定し、そのエリアテーマに応じた空間づくりを行っています。



※御堂筋道路空間再編整備ガイドラインの対象区間は、「1-3. 対象区間及び対象範囲 (P3)」を参照

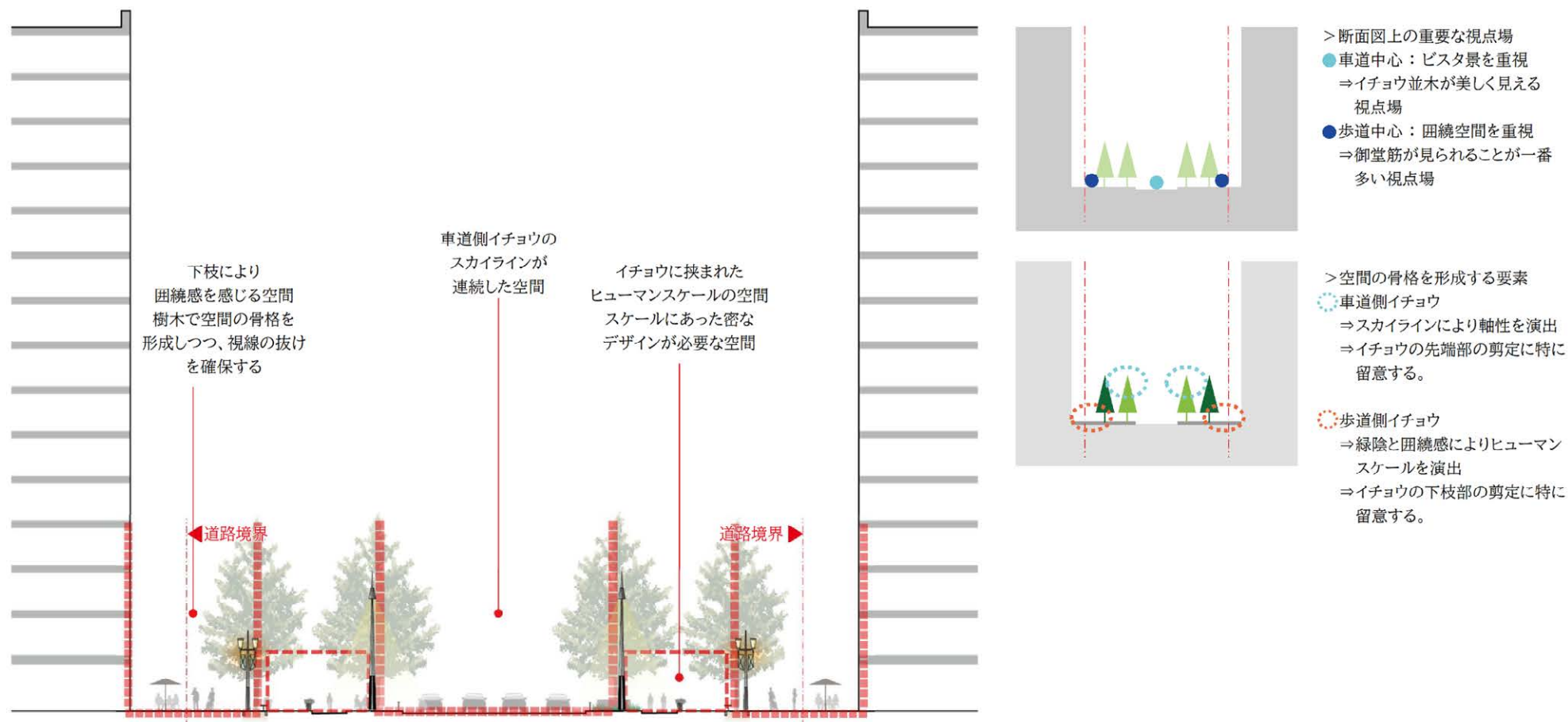
2 めざす空間イメージ Target Image

2-2. 空間づくりの考え方

2) 空間骨格を意識した空間づくり

ここでは、イチョウによって構成される御堂筋の空間構成の骨格のあり方を示します。空間構成の骨格として、中央部のイチョウのスカイラインが連続した空間と囲繞感（囲まれている感覚）を感じる建物側の空間を分け、それぞれの空間の主要な視点場からの見え方とスケール感をコントロールしていきます。

▼御堂筋のめざすべきプロポーションと空間骨格イメージ



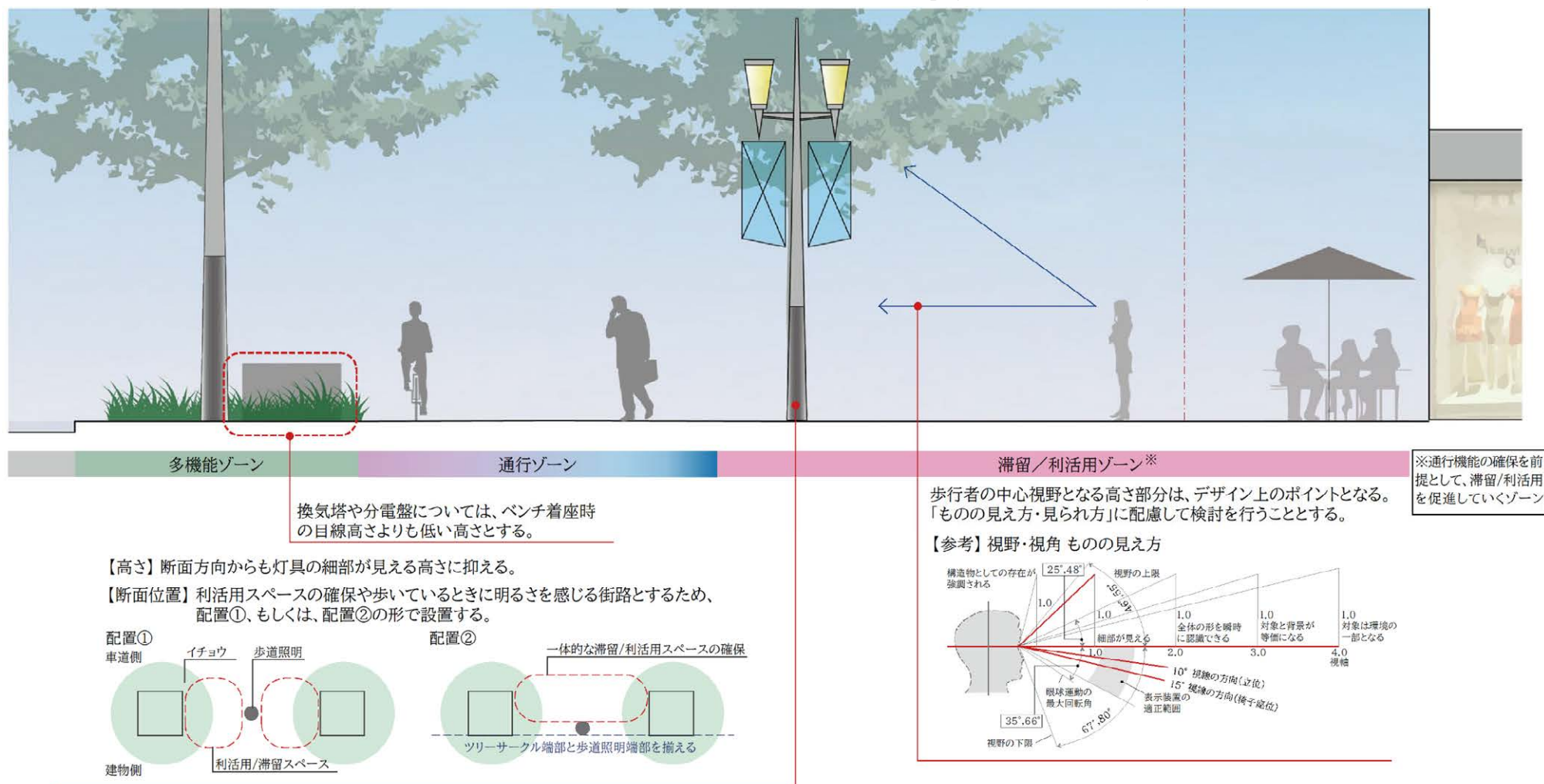
2 めざす空間イメージ Target Image

2-2. 空間づくりの考え方

3) アイレベルでの見え方を意識した空間づくり

ここでは、街路景観要素間の関係について特に大きさ、スケールに着目してあるべき姿を示します。本ガイドラインでは、人中心の考え方に基づき、「アイレベルでの見え方」を重視することとします。歩行時や着座時のおおよその視点の高さから地物の大きさのコントロールを行っていきます。

▼見え方を意識したスケールイメージ ※「上質な賑わいと風格のある洗練されたビジネスエリア」（船場中央3～淀屋橋）のイメージ



3 デザインの考え方

Design Code

3-1. デザインエレメントの取扱いに関する考え方

御堂筋の沿道敷地・建物と道路空間が一体となった景観誘導を行っていくため、本ガイドラインでは、景観計画や御堂筋デザインガイドラインで示されている方向性と整合したデザインの考え方・基準を規定します。

沿道敷地・建物では、御堂筋全体にわたる風格とにぎわいをあわせもつ街路景観の形成を基本に、エリア特性に応じた景観誘導の考え方が定められていることから、道路空間においても、街路景観として一定の統一感を持たせつつ、エリアテーマに応じた変化と賑わいを感じる空間づくりを行っていくこととします。

本ガイドラインでは、スケールと反復性・連続性の2つの観点からデザインエレメントを分類し、統一感を持たせる必要のあるエレメント（比較的スケールが大きく、反復性・連続性がみられるエレメント）と、変化と賑わいを生み出す側面の強いエレメント（比較的スケールが小さく、反復性・連続性がみられないエレメント）を分類して整理しています。

なお、換気塔や地下出入口上屋等は、街路景観にあたえる影響が大きいことから、設置しないことを基本とします。また、上空を占有する高架構造物等についても、周辺景観と調和するようにとめます。

沿道建築の景観誘導

景観計画

全体	・大阪のシンボルストリートにふさわしい風格とにぎわいを合わせもつ街路景観の形成	
区間	難波～新橋区間 ・大阪のシンボルストリートにふさわしい風格とにぎわいを合わせもつ街路景観の形成	新橋～淀屋橋区間 ・大規模な建築物が連なり、歩道や街路樹が整備され、多くの人々が行き交う、見通しのよい空間である「大通り」の特性をよりいかして、国際都市・大阪の都心にふさわしい質の高い、風格のあるまちなみを形成（都心中央部景観配慮ゾーン）

御堂筋デザインガイドライン

全体	・大阪の伝統と革新がうみだす世界的ブランド・ストリート	
区間	新橋～船場中央3区間 ・特別な時間を愉しむことができる落ち着いたある複合地区・落ち着いた空間の強みをいかし、都心の多様性、多様化といった時代のニーズに合わせた特色を発揮	船場中央3～淀屋橋区間 ・上質なにぎわいと風格あるビジネス地区・業務を軸としつつ魅力あるにぎわいの積極導入により風格あるビジネスエリアを実現

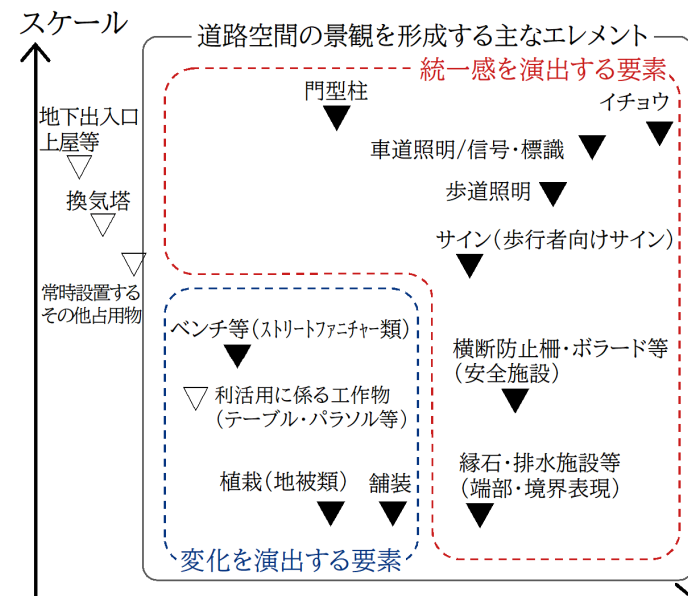
道路空間の景観誘導

御堂筋道路空間再編整備ガイドライン

全体	■ 風格ある御堂筋を実現するため、「統一感を演出する要素」で、御堂筋全体の統一感・風格を演出 ・全区間でデザインの基調を統一 ・統一感・風格の演出のため、極力断面位置を揃え軸性を強調	
区間	■ 変化と賑わいを感じられる空間づくりのため、「変化を演出する要素」で、エリア特性に応じた賑わいを創出 楽しく歩ける賑わい商業エリア（難波西口～新橋） ・利用者間の交流を促すベンチの配置等、デザインエレメントにより新たな活用や回遊を創出 ・歩行者等の安全な通行を妨げないよう形態や配置を工夫	落ち着いた賑わいを感じる、高質商業とビジネスの複合エリア（新橋～船場中央3） ・御堂筋デザインガイドラインの基準との整合を図りながら、民地と道路空間が一体となった風格ある景観誘導を行う ・「楽しく歩ける賑わい商業エリア」よりもデザインコントロールを強め、風格ある都市景観を妨げないよう、形態や配置を工夫

沿道建築の景観誘導の方向性と整合する形で、道路空間の景観誘導の基本的な考え方を規定

▼デザインエレメントの分類



▼：主に道路付属物・交通信号等として設置するエレメント

▽：主に道路占用物として設置するエレメント

3 デザインの考え方 Design Code

3-2. 各デザインエレメントのデザインの考え方

1) イチョウ **統一感を演出する要素**

御堂筋のイチョウ並木は、大阪市指定文化財となっており、御堂筋のアイデンティティを形成している重要な景観要素です。そのため、イチョウを保全していくだけでなく、街路景観における機能と役割を明確にし、イチョウの魅力を伸ばすことをめざします。

- ・イチョウの保全・樹勢回復を第一優先とし、根の生育を考慮したツリーサークルの配置や水循環に配慮した整備を行っていきます。
- ・御堂筋の骨格を形成するイチョウは4列植栽配置を基本とします。
- ・各街区の断面位置を揃えることとします。
- ・車道側イチョウは軸性の演出に留意することとします。
- ・建物側イチョウは、緑陰機能・視線の抜けに留意することとします。
- ・イチョウの剪定にあたっては自然樹形の形となるように剪定を行うこととします。
- ・イルミネーションの際には、景観に配慮し、イチョウの生育に影響を与えないように留意することとします。

▼モデルプラン



▼イチョウの保全

【生育を考慮したツリーサークル】



【根系誘導耐圧基盤工】



2) 車道照明 **統一感を演出する要素**

車道照明は、都市軸としての統一感・連続性を演出すると同時に、イチョウを引き立てるシンプルなデザインとします。

また、交差点部など信号や標識等と統合できる箇所については、可能な限り統合を行うことで、景観要素の数を極力減らしていくこととします。

- ・断面位置はイチョウと揃えることを基本とし、適切な照度確保のため、車道側に配置することとします。また、交差点は通行阻害とならないよう街角部に配置します。
- ・適切な照度が確保できる範囲で極力本数を減らし、縦断配置の間隔を極力揃えることとします。
- ・形態・色彩を全エリアで統一し、単路部と交差点部では異なるデザインとします。
- ・色彩はダークグレー(N4程度)を基本とします。
- ・色温度は温かみのある温度(3000K程度)とします。
- ・塗装は耐候性が高く、光沢が少ないものを基本とします。

▼モデルプラン



▼整備イメージ



御堂筋・道頓堀橋南詰交差点付近

3 デザインの考え方 Design Code

3-2. 各デザインエレメントのデザインの考え方

3) 歩道照明 **統一感を演出する要素**

歩道照明は、「賑わいの演出」、「体験的な明るさ感」を重視した歩道照明とし、「昼においても夜においても絵になる照明」をめざします。

- ・断面配置はイチョウと揃えることを基本とします。利活用スペースの確保等にも配慮することとします。
- ・適切な照度が確保できる範囲で極力本数を減らし、縦断配置の間隔を極力揃えることとします。
- ・歩道照明に信号・標識は共架しないこととします。
- ・形態・色彩を全エリアで統一します。
- ・色彩はダークグレー(N4 程度)を基本とします。
- ・色温度は温かみのある温度(3000K 程度)とします。
- ・塗装は耐候性が高く、光沢が少ないものを基本とします。
- ・広告物はバナーで演出することを基本とし、啓発ポスター等を含め、照明柱には、原則貼付を行わないこととします。なお、バナーは彩度を落とした色彩とします。

▼モデルプラン



▼整備イメージ



御堂筋・難波交差点付近

4) 門型柱 **統一感を演出する要素**

門型柱は、車道照明や信号等ポール系の地上工作物との統一感を感じるデザインとします。

また、車道照明の位置と揃えることとし、御堂筋のビスタを阻害しないスレンダーな形態とします。

なお、配置については、交通管理者等との協議の上、決定します。

- ・安全を確保した配置とします。
- ・極力統合し、数を減らすこととします。
- ・御堂筋全線にわたって標識・添架物等の配置の考え方を統一します。
- ・形態・色彩を全エリアで統一します。
- ・色彩はダークグレー(N4 程度)を基本とします。
- ・塗装は耐候性が高く、光沢が少ないものを基本とします。

▼モデルプラン



▼整備イメージ



御堂筋・難波交差点付近

3 デザインの考え方 Design Code

3-2. 各デザインエレメントのデザインの考え方

5) 信号・標識 統一感を演出する要素

信号・標識は、車道照明や門型柱等、ポール系の地上工作物との統一感を感じるデザインとします。

また、極力車道照明の位置と揃えることとし、配置については、交通管理者との協議の上決定します。

- ・安全を確保した配置とします。
- ・極力照明と共架を行うこととします。
- ・形態・色彩を全エリアで統一します。
- ・色彩はダークグレー(N4程度)を基本とします。
- ・塗装は耐候性が高く、光沢が少ないものを基本とします。
- ・原則として、啓発ポスター等の貼付を行わないこととします。

▼モデルプラン



▼整備イメージ



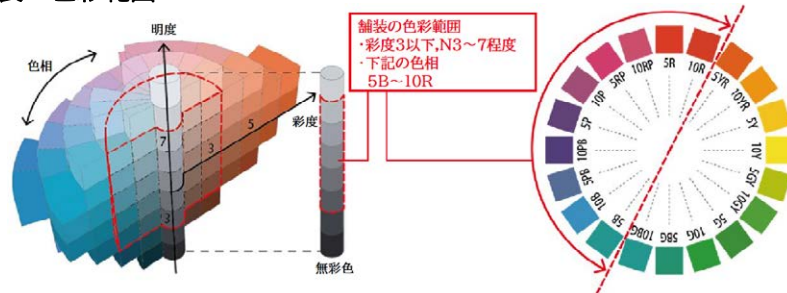
御堂筋・道頓堀橋南詰交差点付近

6) 舗装 変化を演出する要素

舗装は、空間の印象に大きな影響を与えるため、イチョウを引き立たせる空間の背景となる「地」としてのデザインを行います。御堂筋では、質感を重要視した材料を用いながら、エリアテーマや断面ゾーニング（通行ゾーン、滞留/利活用ゾーンなど）に対応した舗装のデザインをめざします。

- ・断面ゾーンの境界が視覚的に分かるよう舗装切り替えを設けることを基本とします。
- ・色彩については、「統一感を演出する要素」の基調色としている N3~7 程度の無彩色を基本とし、有彩色の舗装材を用いる場合の彩度は 3 以下とします。また、「イチョウを引き立たせる」ために、イチョウに近い色彩は用いないこととします。
- ・白線やブルーライン、障がい者誘導ブロックは、舗装材を用いることを基本とします。
- ・維持管理を行いやすい舗装パターン・素材とします。
- ・素材感を感じる仕上げを基本とします。

▼舗装の色彩範囲



▼モデルプラン（心斎橋区間のイメージ）



※彩度を抑えつつ、白線やブルーラインは舗装材で対応

3 デザインの考え方 Design Code

3-2. 各デザインエレメントのデザインの考え方

7) 縁石・排水施設等（端部・境界表現） **統一感を演出する要素**

縁石・排水施設等の端部・境界表現は、デザインの品質（空間としての完成度）に大きく影響を与えることから、デザインコントロールを強めに行います。

また、排水施設は、断面ゾーンを明示する位置に配置することを基本とします。

- ・形態・色彩を全エリアで統一します。
- ・排水施設は、極力断面ゾーンの切り替え部に配置することとします。
- ・色彩はダークグレー（N4 程度）を基本とし、グレーチング等鋳鉄の仕上げについては、N2～3 程度の色彩とします。

▼整備イメージ

【縁石】



縁石に舗装と調和した色彩を用いることで、極力目立たないように工夫しています。（御堂筋・道頓堀橋南詰交差点付近）

【排水施設】



スレンダー側溝を配置することで、側溝自体が空間の境界を明示する機能を持っています。（中之島通）

8) 横断防止柵・ボラード等（安全施設） **統一感を演出する要素**

横断防止柵・ボラード等の安全施設は、連続的に配置しても街路景観が煩雑とならないように、スレンダーかつシルエットがシンプルなデザインとします。

- ・歩行者中心の考え方のもと、歩行者動線や利活用の阻害とならないように工夫して配置を行います。
- ・景観に十分配慮しながらも、安全を確保した配置とします。
- ・形態・色彩を全エリアで統一します。
- ・色彩はダークグレー（N4 程度）を基本とします。
- ・素材は石材を用いず、鋳鉄・鋼材等を基本とします。
- ・塗装は耐候性が高く、光沢が少ないものを基本とします。

▼整備イメージ

【横断防止柵】



御堂筋・道頓堀橋南詰交差点付近

【車両防護柵】



御堂筋・道頓堀橋南詰交差点付近

【ボラード】



御堂筋・難波交差点付近

3 デザインの考え方

Design Code

3-2. 各デザインエレメントのデザインの考え方

9) サイン（歩行者向けサイン） **統一感を演出する要素**

サイン（歩行者向けサイン）は、歩行者の視認性を確保するとともに、各サインのデザインリレーションを確保しつつ、他のデザインエレメントと調和した統一的なデザインをめざします。

また、観光案内サインや放置駐輪規制サイン等の道路占用物として設置するサインは統合するなどして、極力減らしていくこととします。

なお、ここでは歩行者案内サイン（道路附属物としてのサイン）とその他道路占用物としてのサインを対象とします。

■歩行者案内サイン（道路附属物としてのサイン）

- ・ 矩形の形態を基本とし、イチョウなどの周辺景観を考慮した高さとしします。
- ・ 板面は視認性を十分に確保できる大きさとしします。
- ・ ボルトの露出は避け、シンプルな形態としします。
- ・ 色彩は、ダークグレー（N4 程度）を基本としします。
- ・ 御堂筋の風格にふさわしい上質な素材を用いることとしします。
- ・ 塗装は耐候性が高く、光沢が少ないものを基本としします。
- ・ 各サインの機能を考慮し、下記の通り配置することとしします。

○シンボル型サイン：御堂筋自体を案内するサイン

地下鉄出入口付近等、案内誘導上重要な箇所へ設置し、イチョウの配置に揃えることを基本としします。（ベンチ等がある場合は、景観バランスを考慮し一体設置も検討します。）

○矢羽根型サイン：東西交差道路の通り名を案内するサイン

各東西道路との交差部歩道脇に設置することを基本としします。

○路面埋込型サイン：東西交差道路の通り名を案内するサイン

矢羽根型サインの視認性確保が難しい場合や、歩行者の通行空間確保が優先される場合には、路面埋込型サインを歩道中心部に設置することとしします。

○地域情報サイン：御堂筋の周辺施設等を案内するサイン

地下鉄出入口付近等、案内誘導上重要な箇所への設置を基本とし、通行環境の確保等に十分に配慮することとしします。

■その他道路占用物としてのサイン

- ・ サインを極力統合し、数を減らしていくこととしします。
- ・ 案内・啓発上、重要な箇所のみに設置することを基本とし、歩行者の通行阻害とならない位置に配置することとしします。
- ・ モニュメント性の高い形態やボルトの露出は避け、極力シンプルなデザインとしします。
- ・ 色彩はダークグレー（N4 程度）を基本としします。
- ・ 御堂筋の風格にふさわしい上質な素材を用いることとしします。
- ・ 塗装は耐候性が高く、光沢が少ないものを基本としします。

▼モデルプラン：歩行者案内サイン

【シンボル型サイン】



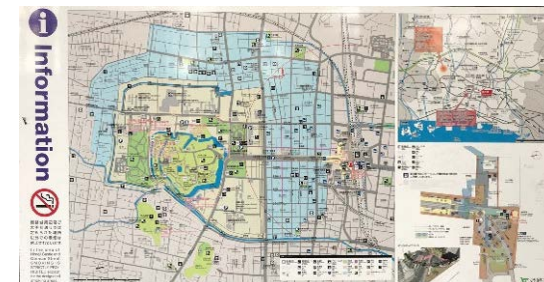
【矢羽根型サイン/路面埋込型サイン】



▼その他サインの事例



他の工作物とデザインに統一感を持たせた事例（姫路大手前通り）



路上喫煙禁止サインを案内板に統合した事例（姫路大手前通り）

3 デザインの考え方 Design Code

3-2. 各デザインエレメントのデザインの考え方

10) 植栽（地被類） 変化を演出する要素

地被類等の植栽は、「手に触れることができる」人に近い植栽であるため、より一層見え方を重視したデザインを行うこととします。

- ・各エリアテーマに沿って種類や色彩等を定めることを基本とし、花や紅葉等の季節感の演出にも地域と連携して取り組んでいきます。
- ・また、スポンサー花壇制度等を活用して、緑の質の向上につとめます。
- ・植栽保全の観点から、ゴミ捨てや歩行者横断等がされにくい配置・構造とします。

▼エリアごとのデザインの考え方

エリアテーマ： 楽しく歩ける賑わい 商業エリア（難波西口 ～新橋）		【花等の地被類で賑わいを演出】 ・地域と連携して、花や紅葉等の季節感の演出にも取組み、賑わいを創出する。 ・植栽帯は基本的に立ち上がりを設けず、フラットな整備とする。
エリアテーマ： 落ち着いた賑わいを感じ、高質商業とビジネスの複合エリア （新橋～船場中央3）		【明るい緑で少しの賑わいを演出】 ・地被類は明るめの緑の地被を基調とし、ビジネスエリアよりも明るい印象とする。 ・植栽帯は基本的に立ち上がりを設けず、フラットな整備とする。
エリアテーマ： 上質な賑わいと風格のある洗練されたビジネスエリア（船場中央3～淀屋橋）		【濃い緑で風格を演出】 ・地被類は濃い緑のものを基調として用い、落ち着き、風格を演出する。 ・植栽帯は基本的に立ち上がりを設けず、フラットな整備とする。

▼整備イメージ



地域と連携し、季節感の演出を行っている取組例
（御堂筋チャレンジ 2022）

11) ベンチ等（ストリートファニチャー類） 変化を演出する要素

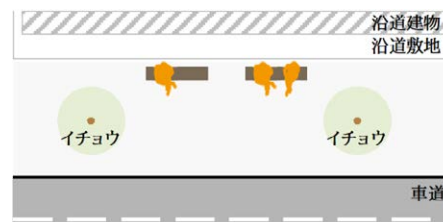
ベンチ等のストリートファニチャー類は、人の目に一番触れることが多く、更に触られることも多い要素のため、より一層質感を重視し、繊細なデザインを行うこととします。

また、人の溜まり場をつくりだす性質を活かして、まちの賑わいと変化を演出していきます。

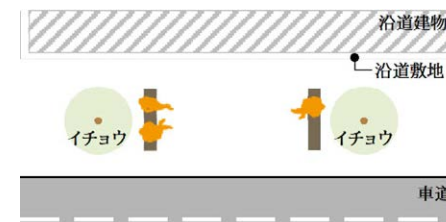
- ・通行者の整流化や車止め効果があることを踏まえ、歩道端部の配置を基本とします。
- ・また安全性に十分留意し、歩行者動線や利活用の阻害とならないように配置します。
- ・地先型、アイランド型を基本に沿道状況に応じた配置とします。
- ・各エリアテーマに沿ったデザイン・色彩を基本とします。
- ・木材など人にやさしい素材を用いることを基本とします。
- ・地域でも手入れを行いやすいよう、維持管理に配慮したデザインとします。

▼配置のパターン

【地先型】



【アイランド型】



▼整備イメージ（御堂筋チャレンジ 2022）



3 デザインの考え方 Design Code

3-2. 各デザインエレメントのデザインの考え方

1 2) 地下出入口上屋等 道路占用物

地下出入口上屋等は、構造体をスレンダーで洗練されたものとし、透過性の高いデザインとします。

なお、街路景観への影響が大きいため、設置しないことを基本としますが、協議の上、やむを得ず設置する場合は、景観に十分配慮することとします。

- ・沿道建築物に極力取り込むこととします。
※沿道建築に取り込めない場合、下記の考え方でデザインを行うこととします。
- ・矩形の形態を基本とし、極力屋根高さ・腰壁高さを抑えることとします。
- ・モニュメント性の高い形態は避け、シンプルな形態とします。
- ・鋼材色彩は、ダークグレー(N4 程度)とします。
- ・鋼材の塗装は耐候性が高く、光沢が少ないものを基本とします。

▼モデルプラン

【沿道建築に取り込まれた場合】



【沿道建築に取り込むことができない場合】



▼整備イメージ



御堂筋・難波交差点付近

1 3) 換気塔 道路占用物

換気塔は、視線の抜けの阻害にならないように、ボリュームを小さく抑え、素材感を感じられるシンプルなデザインとします。

なお、街路景観への影響が大きいため、設置しないことを基本としますが、協議の上、やむを得ず設置する場合は、景観に十分配慮することとします。

- ・矩形の形態を基本とし、極力高さを抑えます。
- ・モニュメント性の高い形態は避け、シンプルな形態とします。
- ・鋼材色彩はダークグレー(N4 程度)を基本とします。
- ・周囲の景観と調和した素材を用いることとします。

▼モデルプラン



▼整備イメージ



御堂筋・本町3交差点付近

3 デザインの考え方 Design Code

3-2. 各デザインエレメントのデザインの考え方

1 4) 常時設置するその他の占用物 道路占用物

常時設置するその他の占用物は、景観に十分配慮して設置することとします。
 なお、常時設置するその他の占用物とは、電話ボックス・分電盤・信号制御盤・マンホール・公共広告・送水口など、長期間連続的に設置される工作物をさすこととします。

- ・統合できるものは極力統合することとします。
- ・高さや平面面積は極力抑えることとします。
- ・鋼材色彩はダークグレー（N4程度）とします。
- ・マンホールについては、周囲の舗装と調和するようにします。

▼整備イメージ

【分電盤・信号制御版】



御堂筋・難波交差点付近

【マンホール】



御堂筋・新橋交差点付近

1 5) 利活用に係る工作物（テーブル・パラソル等） 変化を演出する要素 道路占用物

テーブルやパラソル、可動式椅子、プランター等の利活用を支える工作物は、御堂筋の賑わいと変化を演出するための重要な要素であるため、デザインをコントロールして、街路空間全体としての雰囲気醸成していくことをめざします。

- ・安全性に十分留意し、歩行者動線や利活用の阻害とならないよう配置します。
- ・地先型、アイランド型を基本に沿道状況に応じた配置とします。
- ・各エリアテーマに沿ったデザイン・色彩を基本とします。
- ・木材など人にやさしい素材を用いることを基本とします。
- ・その他、広告物等についても視覚的インパクトが大きいため、デザインについては、景観に十分配慮することとします。

▼エリアごとのデザインの考え方

エリアテーマ： 楽しく歩ける賑わい 商業エリア（難波西口～新橋）		【空間のアクセントとなり、賑わいを感じるデザイン】 ・色彩は、彩度が比較的高いものもアクセントカラーとして取り入れながら、賑わいを演出する。
エリアテーマ： 落ち着いた賑わいを感じる、高質商業とビジネスの複合エリア（新橋～船場中央3）		【高級感がありつつも親しみやすいデザイン】 ・木材を用いるなど自然素材を取り入れながらもシャープな印象のファニチャーとする。 ・色彩は、彩度をおさえたアースカラーを基本とする。
エリアテーマ： 上質な賑わいと風格のある洗練されたビジネスエリア（船場中央3～淀屋橋）		【落ち着き、洗練されたデザイン】 ・色彩は、グレー/ダークブラウン/ブラックなどを基調とするなど、落ち着いた色彩のファニチャーとする。

▼モデルプラン



▼設置イメージ（御堂筋チャレンジ 2022）





淀屋橋周辺エリアの将来イメージ（鳥瞰）



道頓堀周辺エリアの将来イメージ（車道中央から）



心斎橋周辺エリアの将来イメージ（車道側から）

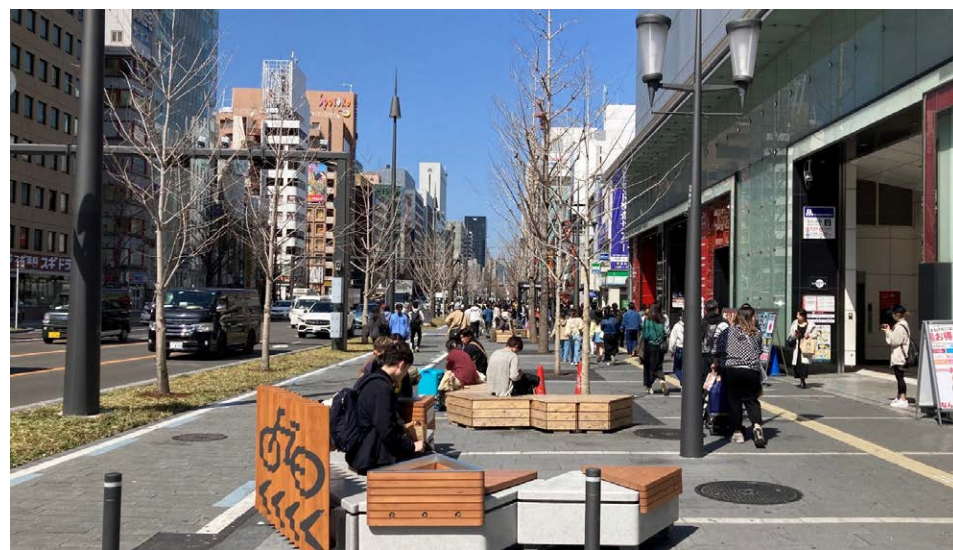


淀屋橋周辺エリアの将来イメージ（歩道部）

※あくまでイメージであり、変更の可能性があります。



道頓堀川方面からみた道頓堀周辺エリアの様子



千日前通り方面からみた道頓堀周辺エリアの様子



夜間の道頓堀周辺エリアの様子



道路空間利活用社会実験（御堂筋チャレンジ）時の難波周辺エリアの様子

発行年月：令和●年●月

発行：大阪市

編集：大阪市 建設局 企画部 道路空間再編担当

〒559-0034 大阪市住之江区南港北 2-1-10 ATC ビル ITM 棟 6 階

TEL：06-6615-6786